



ひきこもり等子ども・若者相談支援センター
枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議

平成28年度の記録

[資料編を除く]



枚方市子ども青少年部子ども総合相談センター



目 次

【 1 】 ひきこもり等子ども・若者相談支援センター

1. 平成28年度月別延べ相談件数	1 p
2. 場所	1 p
3. 相談員	2 p
4. 相談方法	2 p
5. 相談対象者	2 p
6. 相談内容	5 p
7. 支援内容	6 p

【 2 】 市民啓発等

1. 子ども・若者支援のための市民連続講座	9 p
2. 職員による出前講座等	11 p
3. 子ども総合相談センター「となとな」 オープニングイベント	12 p

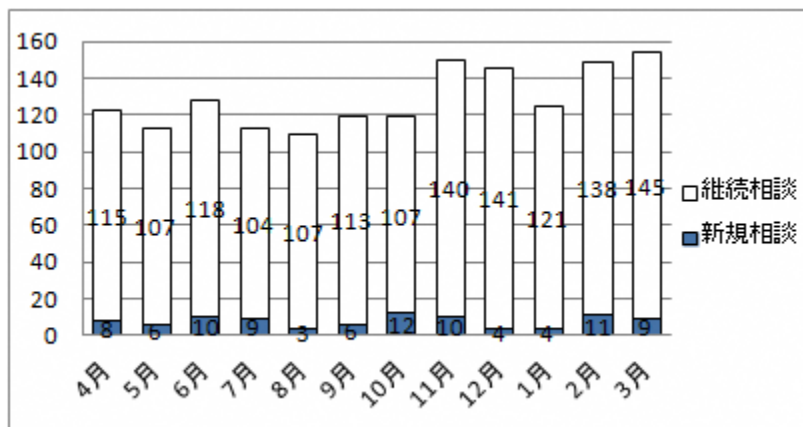
【 3 】 枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議

1. 平成28年の活動状況	13 p
2. 平成28年度ネットワーク会議参加（案内）機関	14 p
3. 全体会議の会議録	15 p

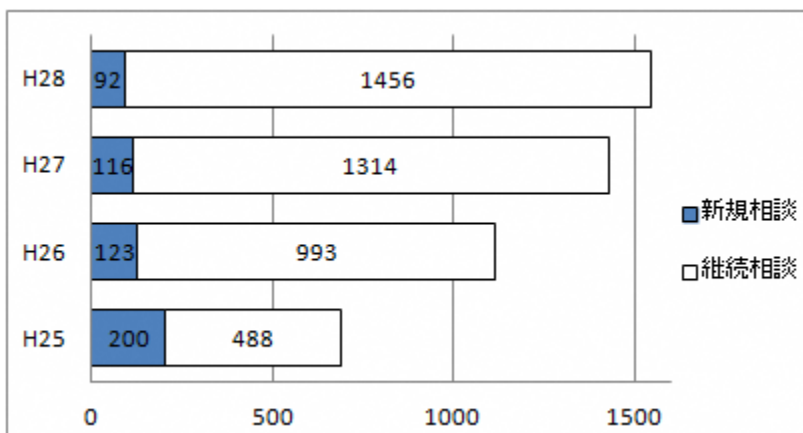
【1】ひきこもり等子ども・若者相談支援センター

1. 平成 28 年度月別延べ相談件数

新規相談が 92 件、継続相談が 1,456 件、合計延べ相談件数は 1,548 件でした。



継続相談の積み重ねが延べ相談件数の増加につながっています。

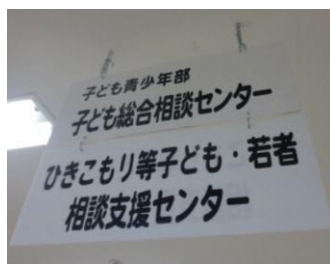


2. 場所

○ 枚方市子ども総合相談センター・となとな内

平成 28 年 4 月に機構改革があり、子どもやその家族の多様化・複雑化する相談に総合的に対応するため、ひきこもり等子ども・若者相談支援センター、家庭児童相談所、ひとり親家庭等自立相談窓口を集約した、子ども総合相談センターが新たに設置されました。

ひきこもり等子ども・若者相談支援センターは、9 月までは別館 5 階で相談をおこない、10 月からは、サンプラザ 3 号館 4 階に移転し、専用の相談室も増設されました(2 室)。また、市民公募で子ども総合相談センターの愛称「となとな」が選ばれました。



3. 相談員

○ 臨床心理士等の専門相談員が対応

臨床心理士 3 名、社会福祉士 1 名の 4 名体制で対応しています。

相談員のスキルアップのため、2 か月に 1 回ひきこもり等の支援について外部講師より助言をもらうスーパービジョンを実施し、各種研修へも参加しました。また、相談員同士の情報共有の場を毎週 1 回、枚方若者サポートステーションとの共有会を月 1 回行いました。

4. 相談方法

○ 電話相談と面接相談（専用電話を設置）

	H25	H26	H27	H28
面接相談	540	1029	1289	1348
電話相談	148	87	141	200
計	688	1116	1430	1548

平成 28 年度は、面接相談が延べ 1,348 件、電話相談が延べ 200 件でした。直接お会いし時間をかけて相談をお受けすることが多いですが、相談者に応じて使いわけています。

5. 相談対象者

< 年齢 >

○ 相談対象者は、おおむね 15 歳（中学卒業後）から 39 歳まで

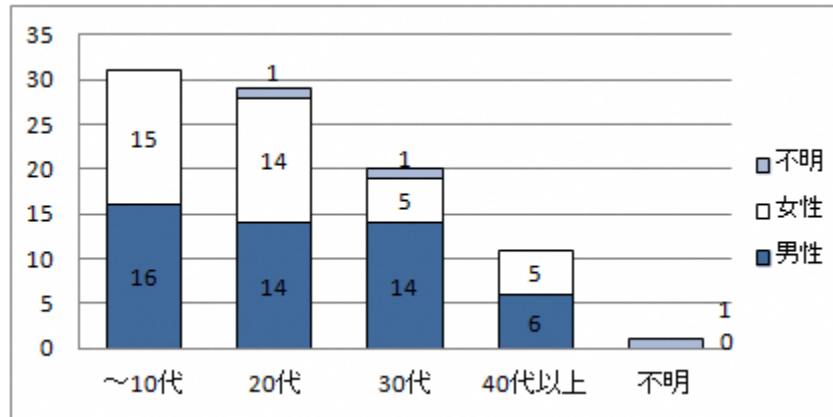
（40 代以上の方のご相談もお受けしています。）

平成 28 年度は、10 代が一番多く、20 代、30 代と続きます。15 歳から対象ということを見ると、10 代の多さは特徴的です。また、一定数 40 代以上の方の相談もあるという現状がみられました。

年代×性別

	～10代	20代	30代	40代以上	不明	計	
男性	16	14	14	6	0	50	54.3%
女性	15	14	5	5	0	39	42.4%
不明	0	1	1	0	1	3	3.3%
計	31	29	20	11	1	92	
	33.7%	31.5%	21.7%	12.0%	1.1%		

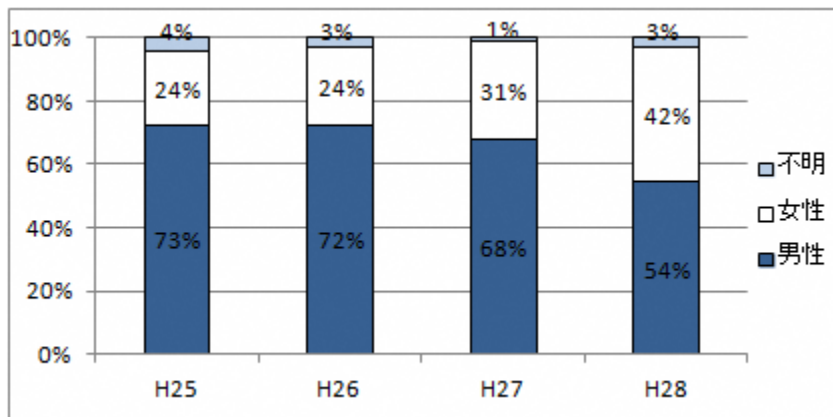
（新規相談 92 件より）



<性別>

男性対象者についての相談の方が多い点は変わりませんが、少しずつ女性対象者についての相談の割合が増加しています。

	H25		H26		H27		H28	
男性	145	(72.5%)	89	(72.4%)	79	(68.1%)	50	(54.3%)
女性	47	(23.5%)	30	(24.4%)	36	(31.0%)	39	(42.4%)
不明	8	(4.0%)	4	(3.3%)	1	(0.9%)	3	(3.3%)
計	200		123		116		92	

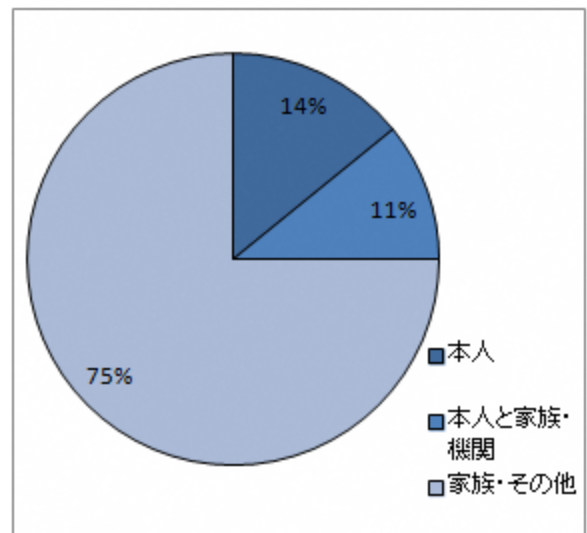


<相談者>

○ 相談は、ご本人とご家族、関係者の方が対象
— 初回相談者 —

本人	13	14.1%
本人と家族・機関	10	10.9%
家族・その他	69	75.0%
計	92	

初回相談の割合は、75.0%がご家族からです。



まずはご家族との定期的な継続相談を続け、徐々にご本人とつながっていくことを目指していきます。

	H25		H26		H27		H28	
本人	10	(5.0%)	9	(7.3%)	10	(8.6%)	13	(14.1%)
本人と家族・機関	4	(2.0%)	8	(6.5%)	6	(5.2%)	10	(10.9%)
家族・その他	186	(93.0%)	106	(86.2%)	100	(86.2%)	69	(75.0%)
計	200		123		116		92	

—経路—

	H27		H28		
関係機関	37	(46.3%)	34	(51.5%)	ひきこもり等子ども・若者 相談支援センターを知ったきっかけは、関係機関からの紹介が51.5%（地域若者サポートステーション、家庭児童相談担当、医療機関、高等学校、若者支援関係NPOなど）、広報（10月号に子ども総合相談センターについて掲載）やホームページが次いで多くなっています。
広報	10	(12.5%)	12	(18.2%)	
ホームページ	16	(20.0%)	7	(10.6%)	
知人	3	(3.8%)	2	(3.0%)	
その他	14	(17.4%)	11	(16.7%)	
計	80		66		

（新規相談の内、聴き取りを行った分）

ています。「その他」の中には、コールセンターよりつながったもの、既にご家族やきょうだいが相談しているというものがありました。

<居住地>

	H28	
市内	79	85.9%
市外	9	9.8%
不明	4	4.3%
計	92	

対象は市内在住の方ですが、市外の方からの相談もありました。一旦お聴きして、他市で利用できる相談窓口の情報提供を行うまでの対応をしています。

6. 相談内容

○ 相談内容は、ひきこもり、ニート、不登校に関するものが対象

平成 28 年度の相談内容は、ひきこもりと準ひきこもり相談が合わせて 45.6%、続いて不登校相談が 16.7%、就労相談が 13.2%でした。

ひきこもり	準ひきこもり	不登校	就学	就労	その他	計
21	31	19	1	15	27	114
18.4%	27.2%	16.7%	0.9%	13.2%	23.6%	

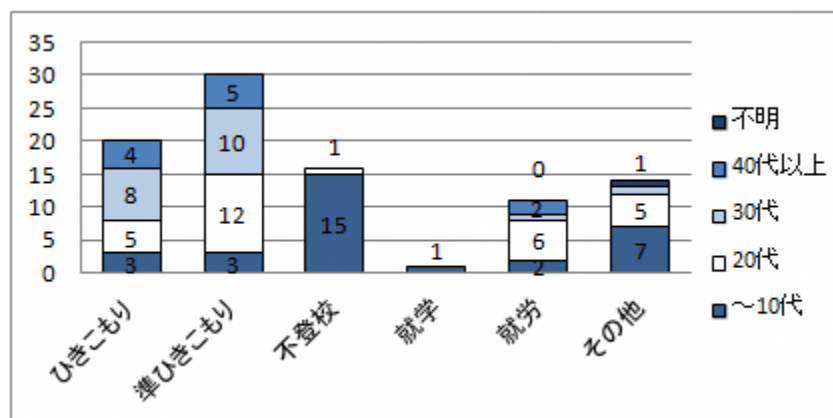
(相談内容の複数選択あり)

ひきこもりと準ひきこもり相談は、20代と30代が中心ですが、それぞれ各年代からの相談がありました。

年代×内容①

	ひきこもり	準ひきこもり	不登校	就学	就労	その他	計	
～10代	3	3	15	1	2	7	31	33.7%
20代	5	12	1	0	6	5	29	31.5%
30代	8	10	0	0	1	1	20	21.7%
40代以上	4	5	0	0	2	0	11	12.0%
不明	0	0	0	0	0	1	1	1.1%
計	20	30	16	1	11	14	92	
	21.7%	32.6%	17.4%	1.1%	12.0%	15.2%		

(新規相談 116 件より)



※年代と相談内容別の件数は、主な相談内容をひとつにして集計しています。

7. 支援内容

○ 1回の電話及び面接相談で、助言や適切な窓口につないで終了したケース

新規相談 92 件中、43 件でした。終了の例としては、適切な支援機関の情報提供や資源の整理、家族の関わり方についての助言を行ったものなどです。

（情報提供支援機関）

若者支援関係 NPO 等、枚方市保健所、他市相談窓口、枚方市居場所支援事業「ひらぼ」、地域若者サポートステーション、家庭児童相談所、医療機関など（多かったものを抜粋）。

○ 複数回の相談を重ねて助言や他機関へのつなぎをしたもの、または継続相談となっているケース

新規相談 92 件中、49 件でした。

平成 28 年度末で継続相談中のケースは 94 件です。その内、ご本人と継続相談中が 52 件、ご家族と継続相談中が 64 件です。

ご家族とご本人両方の相談をお聴きしているケースも 22 件あります。

	H25	H26	H27	H28
各年度末時点で継続相談中	50	72	82	94
本人と継続相談中	17	36	47	52
家族と継続相談中	38	56	72	64
（内）本人と家族と並行で継続相談中	5	20	37	22

（H25年度からの継続相談も含む）

○ 訪問支援

	H25	H26	H27	H28
家庭訪問	22	40	53	49
同行訪問	11	18	25	22
計	33	58	78	71

継続相談の中で、必要に応じて訪問支援を行いました。

ご自宅へ伺って、ご本人のお話をお聴きする家庭訪問は、49 件、ご本人やご家族と一緒に各窓口に同行する、同行訪問は、22 件ありました。

（同行訪問先） 地域若者サポートステーション、就労体験の職場、市役所各窓口、福祉関係事業所など

○機関連携

機関連携	52
その他支援(手紙など)	10

※11月より集計

ご本人やご家族の了承の元、他機関に紹介するための事前連絡や、状況の共有、支援のための協議など、機関との連携を行いました。また、本人へ手紙を送るなど、様々な支援の方法を検討しています。

○居場所支援「ひらぼ」

ひきこもり等の子ども・若者が社会に参加するきっかけとするためのスモールステップとしての居場所支援「ひらぼ」を、枚方公園青少年センターを中心に実施しています。相談支援センターの相談者を対象に、相談員との1対1の関係からステップアップし、5、6人の集団での活動を通して社会とのつながりを築いていくことを目指します。実際の活動においては、専門のコーディネーターを設置し、「サポートフレンド養成講座」を受講したサポートフレンド（登録者31名）の協力を得て、料理やゲーム、スポーツや外出イベントなどの活動を行いました。

また、NPO フェスタへの参加や、女性中心の会、月1同好会（男性中心）、地域の新聞販売店のご協力を得てポスティング体験など、より一人ひとりに合ったプログラムを検討することで、初めてひらぼに参加する若者が挑戦しやすいように工夫しています。

平成28年度新たな試みとして、経験を積み慣れてきた方が、さらにもうワンステップ進んでいく「ひらぼ Ver2.0」を設定しました。居場所の準備段階から参加したり、参加しはじめのメンバーのフォローをしたり、ボランティアスタッフに近い立場での参加をするものです。主体的に動いていくことや、「ひらぼ」の先輩として支援する役割を担うことで、自信と社会性をより身につけていくことを目指します。社会的自立に向けて、居場所支援「ひらぼ」からの卒業を意識したステップでもあります。

居場所支援と並行して、個別の面接相談も継続することで、一人ひとりに合った支援を行っています。

平成28年度は、毎週水曜日と、他の曜日に月2、3回開催し、計80回、参加延べ人数は333人でした（実人数24人／平成27年は17人、平成26年度は7人）。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所回数	6	6	7	7	7	8	6	7	6	6	7	7	80
参加延べ人数	30	27	22	25	26	30	24	25	36	20	33	35	333

また、居場所支援に携わるサポートフレンドを対象に隔月、研修会を実施した他、市の連続講座、府主催のひきこもりサポーター養成研修をサポートフレンドのためのフォローアップ研修としました。

居場所支援「ひらぼ」を中心に、ひきこもり等子ども・若者相談支援センターの取り組みを周知するため、通信「ひらぼう」を発行しました。

○家族の会

実施回数	11
参加延べ人数	54

月に1回、相談支援センターの相談者を対象に同じ悩みを持つ家族の相互理解や交流を目的として、家族の会を開催しました。

平成28年度は実施が11回、参加延べ人数は54人でした。

2時間の内、前半はテーマを設け、支援機関等からの情報提供の時間とし、後半は日ごろの子どもとの関わりなど、各自が自由に思いを語り合う時間としました。また、交流もかねて調理イベントを行いました。親自身が‘楽しむ’ことを体験する時間となりました。

4月	子ども総合相談センターについて
5月	ひきこもり等子ども・若者相談支援センターについて【子ども総合相談センター】
6月	若者の就労支援について【枚方若者サポートステーション】
7月	発達障害について【北摂杉の子会】
9月	お金のことについて【日本生命保険相互会社・ファイナンシャルプランナー】
10月	障害福祉について(障害年金、手帳など)【障害福祉室】
11月	福祉的就労について【枚方市障害者就業・生活支援センター】
12月	年金について【年金児童手当課】
1月	フリーテーマ
2月	生活保護について【生活福祉室】
3月	調理イベント・交流会

開催日時は毎月第2金曜日午後2時～4時
8月は休み

【2】市民啓発等

1. 子ども・若者支援のための市民連続講座 一ひとりひとりが自分らしくー

ひきこもり等の問題とひきこもり等子ども・若者相談支援センターについて、市民により広く、深く知っていただくために連続講座を企画しました。

4回実施し、延べ237名の参加をいただきました。関係機関や相談を行っている当事者(親)の参加も多く、ひきこもり等の若者の現状と支援について理解を深める機会となりました。

【第1回】

日時：平成28年11月7日(月) 14:00～16:00

場所：枚方市総合福祉会館（ラポールひらかた）研修室1

テーマ：子ども・若者の自立と地域支援ー地域臨床心理学の視点からー

講師：石田 陽彦さん（関西大学臨床心理専門職大学院教授）

参加者：47人



【第2回】

日時：平成28年11月27日(日) 14:00～16:00

場所：枚方市総合福祉会館（ラポールひらかた）大研修室

テーマ：ひきこもりの若者を取り巻く状況

講師：斎藤 環さん（筑波大学大学院人間総合研究科教授）

参加者：112人



【第3回】

日時：平成29年1月21日(土) 14:00～16:00

場所：枚方市総合福祉会館（ラポールひらかた）研修室1

テーマ：若者の就労体験プログラムとキャリア教育

ー通信制・定時制高校の生徒たちを支える仕組みへー

講師：今井 紀明さん（認定NPO法人D×P理事長）

参加者：33人



【第4回】

日時：平成29年2月4日(土) 14:00～16:00

場所：枚方市総合福祉会館（ラポールひらかた）研修室1

テーマ：生きにくさを抱える発達障害の若者の理解と支援

講師：橋本 和明さん（花園大学社会福祉学部臨床心理学科教授）

参加者：45人



2. 職員による出前講座等

文化生涯学習室で実施している「職員による出前講座」に「若者の置かれている現状－ひきこもり・ニートを中心に」「青年期の心模様」の2つをメニューとして上げています。平成28年度は、1回申込があり、実施しました。また、団体等から直接の講座の依頼もあり、対応しました。

①職員による出前講座

団体名：招提中学校地域教育協議会

日時：平成28年8月28日(金)10:00～11:00

場所：招提中学校 参加者：50人

テーマ：1)若者の置かれている現状について

2)青年期の心模様

②枚方市自立支援協議会 精神障害者地域生活支援部会

日時：平成28年9月23日(金)14:00～16:30

場所：枚方市総合福祉会館（ラポールひらかた）

テーマ：若者の置かれている現状－ひきこもり・ニートを中心に－

③青少年育成指導員連絡協議会 北部ブロック研修

日時：平成28年11月26日(日)14:00～16:00

場所：殿山第二小学校 参加者：40人

テーマ：1)若者の置かれている現状について

2)青年期の心模様

④枚方市コミュニティ連絡協議会 北部ブロック 地域リーダー育成研修会

日時：平成29年1月22日(日)10:00～12:00

場所：牧野生涯学習市民センター 参加者：110人

テーマ：1)若者の置かれている現状

2)青年期の心模様

3. 子ども総合相談センター「となとな」オープニングイベント

平成 28 年 4 月の枚方市の機構改革により、子どもやその家族の多様化・複雑化する相談に総合的に対応するため、家庭児童相談所、ひきこもり等子ども・若者相談支援センター、ひとり親家庭等自立相談など、相談窓口及び相談機能を集約し、関係機関との連携を図りつつ、切れ目なく適切な支援施策につなげるため、子ども青少年部に新たに子ども総合相談センターを設置しました。9 月までは、庁舎の都合上、枚方市役所別館 5 階（ひきこもり等子ども・若者相談とひとり親家庭等自立相談）とサンプラザ 3 号館 4 階（家庭児童相談）とに分かれて相談をおこなっていましたが、10 月よりサンプラザ 3 号館 4 階に総合的な窓口をオープンすることとなりました。

オープンにあたって市民に愛称を募集したところ、52 件の応募があり、選考の結果「いっしょとなりで見守っていますよ」という意味で「となとな」と決定しました。12 月には、子ども総合相談センターを広く周知するため、オープニングイベントを行い、市長から愛称「となとな」を発表後、記念講演会を実施しました。

また、周知のためのリーフレットを作成しました。

<オープニングイベント記念講演会>

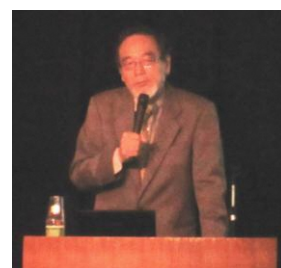
日時等：平成28年12月2日(金)10:00～12:00 メセナひらかた会館

テーマ：いくつになっても迷ったり悩んだり

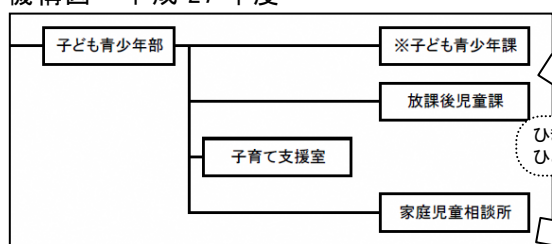
～『子どもって願ったようには育たない』ことにヒントあり～

講師：汐見 稔幸さん（白梅学園大学学長）

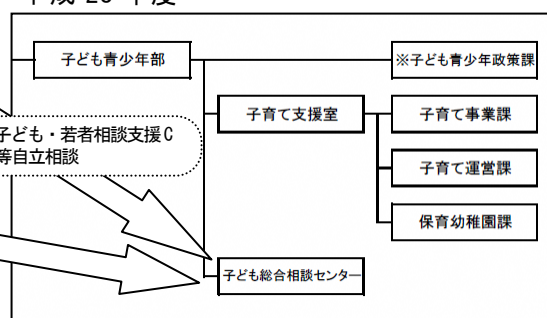
参加者：58人



機構図 平成 27 年度



平成 28 年度



市長からの愛称発表



サンプラザ 3 号館 4 階

【3】ひきこもり等地域支援ネットワーク会議の取り組み

1. 平成 28 年度の活動状況

ひきこもりやニート、不登校などの相談機関・関係機関のネットワーク構築のため、平成24年6月より枚方市内で活動している各関係機関に呼びかけて、枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議（以下、ネットワーク会議という）を開催しています。

平成28年度は、偶数月に全体会議を奇数月に世話人会議を開催しました。世話人会議で次の全体会議のテーマやネットワーク会議の方向性を検討しました。全体会議のテーマは、年間で医療、教育、労働（雇用）など、まんべんなく取り上げるよう工夫しました。

また、平成27年度までは、市内4つの家族会とそれぞれ意見交換を実施していましたが、平成28年度はそれらの連絡組織として「枚方市ひきこもり家族会連絡会」が結成されたので、連絡会の代表者に全体会議に毎回出席してもらうことになりました。そこで2月の全体会議は連絡会の構成家族会や当事者会の皆さんをパネラーに、「ひきこもり家族会と行政の連携について考えるシンポジウム」を実施し、広く参加者も募りました。

その他、今年度は新たにひきこもりの若者の就労支援にご尽力されている民間事業所も参加いただけることになりました。当事者の社会参加や就労支援など、いわゆる「出口」の開拓は重要なテーマで、今後活発な情報交換が出来ればと考えています。

また、個人情報に十分配慮した上で、参加機関から提供された事例をもとに、支援について学び合うことを目的とした事例検討会（ケースカンファレンス）を実施しました。

実施日	会 議 名	内 容
4 月 21 日	第 1 回全体会議	①各機関からの自己紹介 ②今年度の予定について
5 月 26 日	第 1 回世話人会議	①次回全体会の内容検討 ②今年度の年間計画検討
5 月 26 日	ケースカンファレンス	事例提供機関：ひきこもり等子ども・若者相談支援センター 社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカー
6 月 16 日	第 2 回全体会議	枚方市における地域での子ども・若者支援について 青少年育成指導員、枚方公園青少年センター、子どもの居場所づくり・子ども食堂の取り組みについての紹介
7 月 21 日	第 2 回世話人会議	次回全体会の内容検討
8 月 25 日	第 3 回全体会議	地域との連携による若者の就労支援について 宮之阪中央商店街とNPO 法人ホース・フレンズ事務局による若者の就労支援の取り組みの紹介 京阪毎日新聞舎の取り組みの紹介
9 月 15 日	第 3 回世話人会議	次回全体会の内容検討
10 月 20 日	第 4 回全体会議	①子どもの居場所づくり(子ども食堂)の取り組みについて ②地域の医療機関におけるひきこもり等の若者支援について 小林将元(フェルマータメンタルクリニック)
11 月 17 日	第 4 回世話人会議	次回全体会の内容検討
11 月 17 日	ケースカンファレンス	事例提供機関：枚方市ひきこもり等子ども・若者相談支援センター 枚方市自立相談支援センター
12 月 15 日	第 5 回全体会議	高等学校・高等専修学校における若者の現状と進路支援について ECC 学園高等学校、近畿情報高等専修学校
1 月 19 日	第 5 回世話人会議	次回全体会の内容検討
2 月 16 日	第 6 回全体会議	ひきこもり家族会と行政の連携について考えるシンポジウム シンポジスト：家族会4団体、当事者会1団体
3 月 16 日	第 6 回世話人会議	次回全体会の内容検討、来年度の計画

2. 平成28年度 ネットワーク会議参加（案内）機関

枚方公共職業安定所（ハローワーク枚方）
大阪府中央子ども家庭センター
大阪府立精神医療センター
枚方市民生委員児童委員協議会
枚方市社会福祉協議会
NPO法人枚方人権まちづくり協会
枚方市地域就労支援センター
枚方市いきいきネット相談支援センター（社会福祉協議会・人権まちづくり協会）
枚方地域若者サポートステーション（NPO法人ホース・フレンズ事務局）
北大阪地域若者サポートステーション（NPO法人フェルマータ）
大阪府地域若者サポートステーション
OSAKAしごとフィールド
枚方市障害者自立支援協議会幹事会（NPO法人パーソナルサポートひらかた・社会福祉協議会）
枚方市障害者就業・生活支援センター（社会福祉法人であい共生舎）
特定非営利活動法人ひらかた市民活動支援センター
長尾谷高等学校
ECC学園高等学校
大阪府立寝屋川高等学校（定時制の課程）
大阪府立大手前高等学校（定時制の課程）
近畿情報高等専修学校
京阪毎日舎
枚方市ひきこもり家族会連絡会
枚方市 産業文化部 商工振興課
枚方市 健康部 保健所 保健予防課
枚方市 健康部 保健所 保健センター
枚方市 福祉部 生活福祉室
枚方市 福祉部 障害福祉室
枚方市 子ども青少年部 枚方公園青少年センター
枚方市教育委員会 学校教育部 児童生徒支援室
枚方市 子ども青少年部 子ども総合相談センター「となとな」（事務局）

以上30機関

3. 全体会の会議録

会議の名称	平成 28 年度 枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議 ＜第 1 回 全体会＞	
開催日時	平成 28 年 4 月 21 日（木） 14 時 00 分から 16 時 00 分まで	
開催場所	メセナひらかた会館 特別会議室	
出席者	枚方公共職業安定所：1 人 大阪府中央子ども家庭センター：1 人 大阪府立精神医療センター：1 人 枚方市社会福祉協議会：1 人 枚方市民生委員児童委員協議会：1 人 枚方市地域就労支援センター：1 人 枚方市いきいきネット相談支援 C：1 人 枚方若者サポートステーション：2 人 枚方市障害者就業・生活支援 C：1 人 ひらかた市民活動支援センター：1 人	若者支援全国協同連絡会：1 人 寝屋川高校：2 人 長尾谷高校：1 人 ECC 学園高等学校：1 人 児童生徒支援室：1 人 枚方市保健所：2 人 障害福祉室：1 人 子ども総合相談センター 家庭児童相談担当：1 人 子ども・若者・ひとり親相談担当：5 人 計：26 人
＜案件 1 子ども総合相談センターの体制について＞ (子ども総合相談センター)機構改革に伴う体制の変更についての説明。 ＜案件 2 各機関からの自己紹介＞ (若者支援全国共同連絡会議)当事者の視点から作成中の近畿地方の支援機関マップが 5 月に完成予定。今年中に、100 件を目処に近畿の支援機関を調査予定。 (地域就労支援センター)地域に根ざした就労に力を入れている。6 月にパソコン講習、9 月に介護職講習を予定している。 (ECC 学園高校)長期不登校の生徒も受け入れている。卒業後に頑張る力を見につけさせることを重視している。 (枚方市いきいきネット相談支援センター)どこに相談していいか分からないようなときに使ってもらえたらと思う。校区福祉委員会として、子育てサロンや高齢者サロンにも関わっている。 (大阪府中央子ども家庭センター)今年度より、育成支援課と相談対応課に分かれている。中央子ども家庭センターでは北河内の相談を受けている。分室には非常勤の相談員が在中。青少年相談として、概ね 25 歳までの相談を受けている。 (枚方若者サポートステーション)これまでに引き続き、サポステ事業を実施。件数の増加に伴い、家族の相談については、回数を 3 回までとさせていただいている。		

(寝屋川高校)定時制では、不登校・発達障害・精神疾患を持つ生徒が在籍している。子育て能力の低い家庭への親支援が課題となっている。本年度より、大阪府の高校生活支援事業にて、中退防止コーディネーターが定時制高校に配置されることになった。

(精神医療センター)不登校の生徒を対象にしたひまわり合宿について。現在、3 クール実施し、4 クール目を募集している段階。

(保健所)家族の会に参加される方は高齢の方が多い。参加される場合には一度、相談をお受けしている。こころの体温計についての紹介。

※その他機関は資料参照。

各機関より他機関への質疑応答

(障害福祉室)障害を持つ子どもの家族より、小学校に進級時に、特別支援学校に行くべきかどうかの問い合わせがあるが、その際に教育委員会に繋いでいるが、構わないか？

(児童生徒支援室)話は聞いてもらえると思うが、窓口について詳細は後日回答する。

(枚方若者サポートステーション)若者の就労支援においては、まず毎日出かけられる場所があるということがひきこもりから次のステップにいくのに大切だと思うが、そういった支援はないだろうか。気軽に行けるようなところ。

(子ども総合相談センター)我々も必要としているが、今はそういった場所はないというのが現状。

(枚方若者サポートステーション)保健所ではどうだろうか。

(保健所)仮に保健所が実施していくことを考えた場合は、医療を必要としている方を対象にすることになると思う。グループワーク的なものになるように思う。

< 案件 3 ネットワーク会議の今年度の活動予定 >

(子ども総合相談センター)ケースカンファを本年度は 2 回予定している。初回は 5 月 26 日に実施予定。本年度はネットワーク会議の参加者を対象にした研修会を実施してもよいと考えている。

地域協議会の設置については、内閣府の設置促進事業に関しては、本年度は該当しないことになったが、協議会は作る方向で予定している。その際には、ひきこもりに限らず、青少年健全育成など、もう少し幅広く対応する協議会として考えていく必要があると思われる。

< 次回会議 >

・平成 28 年 6 月 16 日（木）14 時より開催予定。

以上

会議の名称	平成 28 年度 枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議 ＜第 2 回 全体会＞	
開催日時	平成 28 年 6 月 16 日（木）	14 時 00 分から 16 時 00 分まで
開催場所	メセナひらかた会館 特別会議室	
出席者	枚方市青少年育成指導員連絡協議会：1 人 ちいさいほいくえん みんなの里：3 人 枚方公共職業安定所：1 人 大阪府中央子ども家庭センター：1 人 大阪府立精神医療センター：1 人 枚方市社会福祉協議会：1 人 枚方市民生委員児童委員協議会：1 人 枚方市地域就労支援センター：1 人 枚方市いきいきネット相談支援 C：1 人 枚方若者サポートステーション：2 人 枚方市障害者就業・生活支援 C：1 人	枚方市ひきこもり家族会連絡会：1 人 寝屋川高校：1 人 児童生徒支援室：1 人 枚方市保健所：1 人 障害福祉室：1 人 保健センター：1 人 子ども青少年課：1 人 枚方公園青少年センター：2 人 子ども総合相談センター 子ども・若者・ひとり親相談担当：3 人 計：26 人
＜案件 1 枚方市における地域での子ども・若者支援について＞ ○枚方市青少年育成指導員の活動について 【青少年育成指導員連絡協議会 会長】 コミュニティの説明・役割、青少年育成指導員連絡協議会の活動について報告していただく。 (家族会連絡会)：指導員の選出についてはどのように実施しているか？ (青少年育成指導員)：地域によって、異なる。各校区の指導員の人数は、児童生徒数ではなく世帯数から決めている。 (枚方サポステ)：指導員の年齢層？ (青少年育成指導員)：現役世代も多い。そのため、会議は夜に実施している。 ○枚方公園青少年センターの事業について 【枚方公園青少年センター 所長】 青少年センターの概要・事業について、青少年相談についての説明をしていただく。 (家族会連絡会)：知名度の課題については、生涯学習市民センターとの連携も検討してはどうか？ (枚方サポステ)：利用者はどのような経緯で利用につながっているのか？ (青少年センター)：特定の人からの口コミで広がっているよう。多くの人に知ってもらい利用してもらうために、若者にとって魅力的な事業を行うなど工夫していく必要があると思う。 (子ども総合相談センター)：利用の際の団体登録について？ (青少年センター)：初回の団体登録は窓口にて申請してもらう。それ以降は、インターネットからも予約可能。22 歳以下の青少年の利用であれば、施設使用料も無料なので、ぜひ活用してもらいたい。 ○子どもの居場所づくりの取り組みについて 【子ども青少年課 課長代理】 子どもの居場所づくりの事業計画について説明していただく。 (家族会連絡会)募集する団体数？どんな団体を想定しているのか？ (子ども青少年課)5 団体募集する予定で考えている。NPO や地域の団体などを考えている。		

○「こども食堂」の取り組みについて 【ちいさいほいくえん みんなの里より】

こども食堂の取り組みについての報告していただく。

(みんなの里)

昨年より、認可外保育園でスタートさせた。ボランティアスタッフの協力を得ながら実施している。みんなの里以外でも、デイサービスやパン屋の場所を利用させていただき、こども食堂を実施している。

地域のことは地域で考えていることが大切だと感じる。地域の人に協力してもらえているのは、商店街など地域の人も、交流して、顔見知りの関係になりたいという要望あるから。活動を通して、働いている母と保育園等を利用せずに自宅で子育てしている母との接点が生まれた。

活動に対する遠方からも寄贈が増えている。直接感謝を伝えること難しいが、参加している人同士のつながりを感じてもらえるように、News Letter を作成し、送付している。封入作業等は、子どもたちも手伝ってくれている。

こども食堂はどんなことがあっても毎週金曜日には必ず実施する。金曜日には必ず、みんなの里のこども食堂があるということをお守りにして欲しい。食事ということは、子どもも親も誘いやすいし、来やすい。困っている、寂しい思いをしている子どもや保護者と関わる事が出来たらと思っている。

(みんなの里ボランティアスタッフ)

学童で見てもらえる学年を過ぎた子どもたちが夜の時間にうろうろしているのが気になっていた。そういった子に少しずつ声をかけて、参加してもらうようになった。わが子とともに活動に参加している。

自分自身も楽しんでやっている。活動を通して、地域での顔見知りが増えた。子どもたちにも地域の人からよく声をかけてもらえる。顔見知りが増えると、地域に見守られている安心感がある。

不登校の経験あり、自分が子どもの頃にも、みんなのような学校でも家でもない場所があって欲しかったなと感じている。

(地域就労支援センター)非常に大切な取り組みであると思う。市の事業としての支援も活用して欲しいので、そういったことを考えている方、これから始めたいと思っている方に届くように周知して欲しい。

(家族会連絡会)新たに実施を考えている団体が、先行して実施している団体である、みんなの里に、研修にしのいくなどして、取り組みが広がって欲しい。

(みんなの里)これまで動いてなかった人の動くきっかけにもなると思う。新しい人達の力を引き出すきっかけになってくれたらと思う。

<次回会議>

・平成 28 年 8 月 18 日 (木) 14 時より開催予定。

以上

会議の名称	平成 28 年度 枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議 ＜第 3 回 全体会＞	
開催日時	平成 28 年 8 月 25 日（木）	15 時 00 分から 17 時 00 分まで
開催場所	市民会館 第 2 集会室	
出席者	京阪毎日舎：1 人 枚方公共職業安定所：1 人 大阪府立精神医療センター：1 人 枚方市社会福祉協議会：1 人 枚方市民生委員児童委員協議会：1 人 枚方市地域就労支援センター：1 人 枚方市いきいきネット相談支援 C：1 人 枚方若者サポートステーション：2 人 枚方市障害者就業・生活支援 C：1 人 長尾谷高校：1 人 ECC 学園高等学校：1 人	枚方市ひきこもり家族会連絡会：1 人 児童生徒支援室：1 人 枚方市保健所：1 人 商工振興課：1 人 障害福祉室：1 人 生活福祉室：1 人 保健センター：1 人 枚方公園青少年センター：1 人 子ども総合相談センター 子ども・若者・ひとり親相談担当：3 人 計：23 人
＜案件 1 地域との連携による若者の就労支援について＞ ○京阪毎日舎より 新聞社との協力による、居場所支援「ひらぼ」における就労体験について、報告していただく。 就労体験に参加した若者の様子や、若者と関わる際に、心がけていることなどお話をいただく。 （子ども総合相談センター）居場所支援にて実施した就労体験は参加者の関心も非常に高く、若者たちも、そういう体験を求めていると感じた。 ○NP0 ホース・フレンズ事務局より 宮之坂商店街と連携して実施している「宮ノサポ」の活動について報告していただく。 宮之坂商店街のコミュニティスペースを起点として、商店街活動に参加することで、地域貢献しながら、社会参加、就労体験、就労マッチングの機会を得ることを目的に実施。 具体的には、商店街の七夕祭りの短冊づくりや、商店街のイベントのチラシ配布。子ども食堂や子ども向けの映画会のサポートなどを実施。また、仕事についての話を聞く講座なども設けている。 上記のような活動を経験しながら、地域でアルバイト等の就労への繋がっていく若者もいることを紹介していただく。 ○宮之坂中央商店街「宮ノサポ」の見学 宮ノサポの見学。現地では、来客対応のプログラムの一貫として、若者が今回会議に出席する参加者に対して、コーヒーマーケットの提供（販売）を実施。 ＜案件 2 その他＞ （商工振興課）10 月 28 日実施の三市合同面接会についての情報提供 （家族会連絡会）「社会的」ひきこもり・若者支援近畿交流会主催のシンポジウムの情報提供		

(子ども総合相談センター)子ども・若者支援のための市民連続講座について案内

<次回会議>

・平成28年10月20日(木)14時より開催予定。

以上

会議の名称	平成 28 年度 枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議 ＜第 4 回 全体会＞	
開催日時	平成 28 年 10 月 20 日（木） 14 時 00 分から 16 時 00 分まで	
開催場所	メセナひらかた 特別会議室	
出席者	京阪毎日舎：1 人 枚方公共職業安定所：1 人 大阪府立精神医療センター：1 人 枚方市民生委員児童委員協議会：1 人 枚方市地域就労支援センター：1 人 枚方市いきいきネット相談支援 C：2 人 枚方若者サポートステーション：1 人 ECC 学園高等学校：1 人	枚方市ひきこもり家族会連絡会：1 人 児童生徒支援室：1 人 枚方市保健所：2 人 障害福祉室：1 人 保健センター：1 人 子ども総合相談センター 子ども・若者・ひとり親相談担当：5 人 計：20 人
＜案件 1 子ども居場所づくり（子ども食堂）の取り組みについて＞ ○子ども青少年課より 8 月から補助金を交付する実施団体を募集し、11 団体が決定したことについて、報告していただく。 対象となる子どもたちに、情報が行き届くように今後、工夫を重ねていくということだった。 ＜案件 2 地域の医療機関におけるひきこもり等の若者支援について＞ ○フェルマータメンタルクリニック 小林将元さんより ・ひきこもりが取り上げられたテレビ番組を題材に、強引なアウトリーチについてお話いただく。単純に批判することは簡単だが、それだけでは問題の解決にはつながらない。 ・親はキーパーソンとして外せない存在。支援者は密に連絡を取り、ともに作戦会議を開く中で、親が落ち着いて子どもと関われるように、こちらが落ち着いて親に関わっていく姿勢が大切。親が安定する中で、変わる子どもはいる。 ・ひきこもり等の若者支援をしようと思っても、財源がないのが実情。医療の枠組みの中で、居場所が利用できるように、デイケアを就労支援の場とする取り組みをしている。 ・入所型や合宿型で行う支援の場合、朝昼晩ときちんと食事を摂ることから始まり、いつも仲間の中にいることができる。「あんなふうになりたい」という目標が身近にいて、やるべきことがあるのは大きい。 ＜案件 3 その他＞ （子ども総合相談センター）子ども・若者支援のための市民連続講座について案内 今後の予定 第 2 回ケースカンファレンス 平成 28 年 11 月 17 日（木）14 時～16 時より 第 5 回全体会議 平成 28 年 12 月 15 日（木）14 時より開催予定。		
		以上

会議の名称	平成 28 年度 枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議 ＜第 5 回 全体会＞	
開催日時	平成 28 年 12 月 15 日 (木) 14 時 00 分から 16 時 00 分まで	
開催場所	メセナひらかた 特別会議室	
出席者	京阪毎日舎：1 人 枚方公共職業安定所：1 人 大阪府立精神医療センター：1 人 大阪府中央子ども家庭センター：1 人 枚方市障害者就業・生活支援 C：1 人 枚方若者サポートステーション：2 人 ECC 学園高等学校：1 人 近畿情報高等専修学校：1 人 寝屋川高校：1 人	枚方市ひきこもり家族会連絡会：1 人 児童生徒支援室：1 人 枚方市保健所：2 人 生活福祉室：1 人 保健センター：1 人 子ども総合相談センター 家庭児童相談担当：1 人 子ども・若者・ひとり親相談担当：4 人 計：20 人
＜案件 1 高等学校・高等専修学校における若者の現状と進路支援について＞ ○ECC 学園高等学校より 中卒生の進路として通信制高校に進学する子どもの割合は増加傾向にある。通信制高校には在宅スタイルと通学スタイルの 2 つのスタイルがあり、在宅生の場合は単位を取得し卒業するための、スクーリングがネックとなることが多い。卒業後の進路が未定の生徒が 10% ほどいる。今後、ソーシャルスキルトレーニングがますます必要となってくること、成功体験を積み自信をつけることの大切さ等を報告していただく。 （家族会連絡会）：通信制高校の選び方がよくわからないという話を聞く。 （ECC 学園高校）：行って現場を見たり、合同相談会を利用するのを勧める。学校によって子どもに合う合わないがある。 ○近畿情報高等専修学校より 通信制の長尾谷高校と提携しており、専修学校であるが、高卒資格も取得できる。中学時代に不登校であった生徒、非行に走っていた生徒も極力受け入れをし、入学後は教室に入れなくても登校できれば出席扱いする制度を設けるなどして様々なフォローを行っている。簿記の 3 級の取得ができるようにと思っている。卒業させることを主眼にしているが、長尾谷高校への転編入する子もいる。卒業後に在宅生活となる生徒が 10% 程度いる等を報告していただく。 ・適応指導教室ルポより、在籍する中学校の担任と保護者、ルポの 3 者で面談を行っていることや、ハローワークで 10 代後半の求職者について、「何をしたら良いかわからない」という人が多い現実について説明いただいた。 今後の予定 第 6 回全体会議 平成 29 年 2 月 16 日（木）14 時より開催予定。		

以上

会議の名称	平成 28 年度 枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議 ＜第 6 回 全体会＞	
開催日時	平成 29 年 2 月 16 日（木） 14 時 00 分から 16 時 00 分まで	
開催場所	サンプラザ生涯学習市民センター 視聴覚室	
出席者	枚方公共職業安定所：1 人 大阪府中央子ども家庭センター：1 人 大阪府立精神医療センター：1 人 京阪毎日舎：1 人 枚方若者サポートステーション：2 人 大手前高校：1 人 枚方市障害者就業・生活支援センター：1 人 枚方市地域就労支援センター：1 人 児童生徒支援室：1 人 枚方市いきいきネット相談支援センター：1 人 ひらかた市民活動支援センター：1 人 枚方市保健所：2 人	障害福祉室：1 人 保健センター：1 人 枚方市ひきこもり家族会連絡会：1 人 商工振興課：1 人 子ども総合相談センター：4 人 NPO 法人つばさの会大阪（1 人） イシス大阪（3 人） カモミール（3 人） 登校拒否を克服する会北河内交流会（7 人：上記 1 人を含む） みんなでつくる学校とれぶりんか（1 人：上記 1 人を含む） 一般参加：6 人 計：41 人
＜家族会の現状報告＞ ・ NPO 法人 つばさの会大阪 家族会はカウンセラーを迎えてサプリ村野で毎月実施。現在 20 家族が登録していて、例会には 15 人程度の参加がある。また、同じくサプリ村野で、毎週月～金の午後 3 時から 5 時半まで居場所事業も行っている。ソフトボールや学習支援などをしていて、簿記の 3 級を目指す人の指導を行い、無事合格した例もある。 ・ イシス大阪 家族会 枚方公園近くで、居場所事業を 3 年ぐらい前までやっていた。今は、家族会だけをしている。メセナで第 2 日曜日の 1 時半から 4 時まで。医療機関や支援機関にアクセスできていない当事者も来ている。 ・ 不登校の親の会 カモミール 毎年 40 数名が会員登録をしているが、例会に来るのは 10 人程度。残りの半数は、すでに不登校を脱した人、半数はひきこもりが長期化して例会に来て、特に話すことがないという人たち。4・5 年前から、顔ぶれが変わらない。課題として、新しい人が来ないことがあり、会の内容が停滞気味だったので、この春から例会を月に 2 回から 1 回に変更し、2 ヶ月に一度クッキングセラピーも兼ねたカフェを開くことになった。 ・ 登校拒否を克服する会 北河内交流会 偶数月には、北河内で交流会を実施し、奇数月には大阪で交流会を実施している。15 名程度が参加。花見や忘年会といった行事も盛り込んでおり、さといもニュースという会報も発行している。		

・みんなでつくる学校 とれぶりんか

家族会ではない。子どもと若者の居場所づくりをしている。親子の関係を引き離すところから始め、不登校やひきこもりを社会的な問題と考えている。具体的には、訪問事業や相談事業を行いながら、13年やってきた。自分に自信がもて、大人を信頼できるようになることを目標にしている。子ども青少年課から補助金の交付を受け、毎週土曜日に、いきいき広場でスタッフとして活躍している。また、被災地支援を行うことで、「自分も役に立つ」という実感できる場面に連れて行っている。不登校・ひきこもりを問題行動と捉えるのではなく、充電期間と捉えている。やりながら人は、らせん状に変わっていく。場面を作ることは、リスクも伴うが、周囲がケアしてリスクを薬にし、学校・地域・行政でともに取り組めたらよいと考えている。

<当事者や当事者の親からの話を聞く>

・北河内交流会 Eさん

大学2年の夏休みから行かなくなる。その後は、なんとか休学を経て卒業したが、そのままひきこもりになり、長い間動く気配がなかった。私（母親）は、数年前から知人に勧められて親の会（「北河内交流会」）に通い、自分の悩みを語り先輩お母さんたちの体験談を聞く中で、少しずつ変わっていった。それを見ていたわが子は、昨年11月「市のひきこもり相談センターに行く」と自分から言ってくれた。本当にうれしかった。その後は居場所にも通い、友達もできたようだ。

・カモミールKさん

息子が高校3年の時に不登校になり、不安で「お母さん、ひとりで悩まないで」という連続講座に参加した。講座終了後に受講生で親の会カモミールを結成した。会では、自分のことを安心して話せ嬉しかった。気持ちも楽になった。子どもは高校中退後しばらくひきこもり、その後大検を受けると言い出してから専門学校を卒業するまで10年くらいかかった。現在は取得した資格で仕事をし、結婚して子どももいる。親の会では、カウンセラーや仲間から元気をもらったり、ほめてもらえてほっこりできる。

・イシス大阪 当事者の方

現在36歳。14歳から登校拒否になり16歳からひきこもり、18歳から精神疾患となる。通信で高校を卒業。他人とコミュニケーションを取るのが大変。地元の保健所の家族会で話したり、情報提供をしたりしている。

・とれぶりんか Nさん

参加している人の中には、中学校から登校できなくなり、統合失調症を発症し、一時期荒れた生活をしていたが、今はヘルパーの仕事をしている。自分のやることで喜んでくれる人がいるのが、支え。

・つばさの会

去年の実績として、大学受験を目指し、合格した人がいる。対人関係が苦手な人が多いが、ソフトボールや卓球等汗を流すことで、対人関係も上手になっていくと感じる。

<各団体からの要望>

・つばさの会

家から外にでるための居場所。就労支援のための作業所を設置してほしい。広く音楽が流れていてコーヒーを飲みながら無料で提供できるような場所。

・イシス大阪

役所に対しての要望はない。むしろいろいろやってもらっていると思っている。連続講座にも参加した。何をどうすれば良いかの参考になった。最近では発達障害についての回が良かった。具体的な示唆を与えてもらった。情報を発信してもらうことがありがたい。啓発活動というか、世の中の雰囲気作りをしてほしい。

・カモミール

親の会の立場を格上げしてほしい。存在を知らない人が多い。1対1の相談ではなく、ピアサポートも行ってもらいたい。居場所を公設で作ってほしい。就労支援などではなく、生きているだけでOKの豊中社協がやっているようなもの。

・北河内交流会

津田支所などに、月に1回とか出張相談会もしてほしい。

・とれぶりんか

アウトリーチをしてほしい。ボランティア同士がスキルを高めていけるような養成する場所を作ってもらいたい。

<質疑応答>

サポステSさん

「なかなか就活と言われても動けないので、居場所が必要と思っている。居場所の例を教えてください。

Hさん

「近畿のサポートマップ作りをしているチームがある。調査をやるのが居場所になる。居場所というのは箱ではなく、取り組みやたまり場的なもの」

Nさん

「行政は縦割りにならざるをえないところもあるが、横串をさしてほしい。居場所はたくさんほしい。

<その他>

・家族会の意義を知らしめてほしい。運営費が大変。

・親亡き後のライフプランをどう考えるか。ライフプランの支援についても考えてほしい。

<子ども総合相談センター課長より>

当cの紹介。官民間問わずたくさんのチャンネルがあった方がよい。市がまとめて引き受けるのではなく、連携を取りながら進めていくのがよいと思う。枚方市では5年前に子ども若者支援計画を作ったが、来年度は改訂もしていく。子ども若者地域協議会の立ち上げも検討。

市の職員も家族会の訪問をしたいと思っている。

次回は、4月に開催予定。

以上



ひきこもり等子ども・若者相談支援センター
枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議
平成 28 年度の記録

平成 29 年 6 月発行

枚方市 子ども青少年部

子ども総合相談センター **となとな**

枚方市岡東町 12-3-4 10 サンプラザ 3 号館 4 階

TEL: 050-7102-3228 (直通)

072-843-2255

(ひきこもり等子ども・若者相談支援センター)

FAX: 072-846-7952

e-mail: kodomocenter@city.hirakata.osaka.jp